



立正佼成会ニューヨーク教会

320 East 39th Street, New York, NY 10016 TEL: (212) 867-5677

E-mail address: koseiny@aol.com, Website : <http://rk-ny.org>



ニュースレター2022年 4月号

皆様こんにちは、いかがお過ごしでしょうか。

春分も過ぎ季節は徐々に暖かい春へと向かっています。

ワクチン接種が進みマスクの使用要請もだいぶ緩和されCOVID以前の日常に戻ろうという試みがいろいろな形で表れています。NY教会としましても慌てることなく徐々に様子を見ながらNY、シカゴ、フォートマイヤーズの施設を再開して行きたいと思えます。

さりとてこれまでに多くの方が亡くなられ、入院加療中の方々はまだ大勢いらっしゃいます。

ここにCOVIDにより亡くなられた方へのご冥福を祈り、入院中あるいは自宅での療養をされている皆様の無事回復を祈念申し上げます。またこの間ずっと取り組んで下さっている医療関係の方々、エッセンシャルワーカーの皆様への感謝も忘れることが出来ません。

さらにCOVIDに加えウクライナでは突然のロシア侵攻があり多くの犠牲者が出ています。

多くの避難民が国外に流出していますが、一日も早く平和に向けた解決が進みますよう共に祈りたく思えます。

さて先月31日に23年間NYに暮らした杉野総務部長さんが帰国されました。20日にはZOOMでお別れの場面を持ちましたが、その時の私の挨拶文を掲載し長年のご労苦に感謝したく思えます。

杉野有里総務部長送別にあたって

ニューヨーク教会総務部長の杉野有里さんは3月31日に23年間にわたるNYでの生活を終え日本に帰国されます。これまでRFP国際本部に勤務されたご主人の恭一さんを支えつつNY教会でのお役を果たされ、これまで多くの教会長さんにお仕えし藤田教会長さんの下で総務部長の大役を拝命され、飯村道場長さんとともに教会運営の支え役として今日に至っています。

思えば23年前に生まれてまだ半年の続己君を抱え恭一さんと3人で冬空の寒さの中JFKに降り立たれました。その後華音ちゃん琢己君がNYで誕生し、教会では皆からあやされ、可愛がれてすくすくと成長し今では立派でたくましいアメリカの大学生として育たれました。

私は杉野家がNYに赴任された時に教会長としてお迎えし、またこうして帰国にあたってもお見送りをする機会に恵まれ大変感慨深い思いがいたします。

杉野ご夫妻とはお二人が結婚される前から本部の渉外課で仕事を共にし、結婚をされジュネーブに勤務される時も他のスタッフと共に送りさせていただきました。

着任後大変不幸にも最初のお子さんが死産となりつらい体験をされましたが、そうした大きな試練をのりこえ今日の立派な家庭を築かれてこられたという、一言では語りつくせぬご苦労があったことと思えます。

有里さんは埼玉県の上尾教会の出身で両親やおばあさまの信仰深い家庭に育ちすくすくと成長されました。高校生時代にはアメリカに留学をされシカゴ支部の皆様にも大変お世話になったと聞いています。留学中に開祖さまがNYにお越しになられその時はひと目お目にかかりたいとの一心でNY教会に

はせ参じましたが、その時はただ感激のあまり大泣きになり開祖さまのお言葉を何一つ思い出せない思いだったとその時のエピソードを話してくれたことがあります。

帰国後は本部に奉職し青年本部では一食運動の担当や青年育成に専念され、その後渉外課に異動となり平和活動で海外に数多く出張し活躍され、ご主人との運命の出会いもありました。

NYではそうした数々の体験を生かし総務部長として教会運営の大切な役割を果たして下さってきました。布教上の事はもとより経理処理から行政や様々な業者との交渉、契約などありとあらゆることにとり組んできてくださっています。今後についてもいきなりそうした仕事を引き継ぐことは困難で国際伝道部に異動されましても引き続きお役を担っていただけるよう、すでに赤川部長にお願いし了解を頂いております。従って本日総務部長のお役を解くわけにはゆきませんので今後もよろしくお願いいたしたく思います。

また教会でのお役もさることながら、教会以外でもいろいろな事に関わられました。エステの資格を取得したり、クラフトの作成でビーズでの創作、シャドウ・ボックスや飾り箱の作成に腕を磨かれマンハッタン在住のママさんたちに教室を開き講習をされるなど多彩で幅広い人間関係を作る能力も持ち合わせていました。

また、私がお会いしたある女医さんは「有里さんは誰にでも優しく、親切に接し困ったことがあるとすぐに飛んでいき手助けする素晴らしい人で、まるでNYのマザー・テレサみたいに思っています。倭成会って本当に素晴らしいですね。」と熱く語ってくれことがとても印象深く思い起こされます。

私たちにとって、こうしたスーパーレディーが帰国されてしまうことはとても心苦しく、今後に不安を感じますが、今まで何でもお願いし頼っていた部分から一人一人が自立して力を出し合っていく絶好の機会と受け止め、今後安心して杉野部長に本部での活躍ができるよう頑張りたく思います。

まだまだ語りつくせぬたくさん思い出がありますが、これまでのご活躍と多大なる貢献に一同感謝申し上げ杉野総務部長の帰国に際してのはなむけの言葉とさせていただきます。

帰国されても国際伝道部のスタッフとして北米担当のお役目と伺っていますので一部NY教会の仕事を引き続き担っていただけますようよろしくお願いいたします。

健康にはくれぐれもお気を付けください。

ありがとうございました。

今月からはまた新たなスタートとなりますが、共に協力しNY教会発足40周年の年を歩み10月の記念式典に向け準備を整えたく思います。



合掌

ニューヨーク教会長
畠山友利